

令和5年度地域創生総合支援事業(サポート事業)採択事業

【一般枠】

ページ	新規・継続	事業名	事業主体	実施場所(市町村及び場所)	事業概要
1	継続3	新たな観光資源発掘プロジェクト	一般社団法人富岡町観光協会	富岡町	長期間の避難により、ふる里への関心が薄らいでいる中、イベントの実施や新たな地域の魅力を発掘し、にぎわい創出や帰還促進、移住、交流人口の拡大につなげるため、下記事業を実施する。 ・桜のライトアップ 4月1日～11日 ・夜ノ森桜並木等をライトアップする。 ・点灯式 4月1日 旧富岡第二中学校 ・写真コンテスト 4～11月 ・誘客コンテンツ作成 4月～ ・写真集の作成 12月～1月
2	継続3	美森の土(うつくしりのつち)まつり地域活性化事業	ふくしま食祭実行委員会浪江支部	浪江町	年間4回にわたって「美森の土まつり」を開催する。 ・実施時期:春、夏、秋(2回) ・実施場所:浪江町内 ・実施内容:農体験、大堀相馬焼体験、紙芝居公演、ゲストコンサート、盆踊り、かぼちゃまんじゅうづくり体験、えごま油しぼり体験、焼き芋体験、地元郷土料理体験&試食会、映画『盆唄』上映、小高生産酒米日本酒試飲体験、地元カラオケ大会など
3	継続2	いいたて村の人々の“心と体の健康増進”への取り組み	特定非営利活動法人ふくしま再生の会	飯館村	村外の医療サポートチームと村内の地域医療機関が連携して、特に孤立しがちな高齢者の日常生活を支え、健康不安を軽減するために以下の取組みを実施する。 ・①健康いちばんの集い(医療従事者による健康相談や施術) ・安心テレフォン(電話による安否確認やカウンセリング) ・NPO,村内団体等関係者に向けた医療体制に関するセミナーの開催
4	継続2	Jヴィレッジハーフマラソン2023	Jヴィレッジマラソン実行委員会	檜葉町	復興のシンボルであるJヴィレッジを拠点に、檜葉町・広野町をコースとしたマラソン大会を開催し、風評払拭と交流人口の拡大を図る。開催前日にはウェルカムパーティを開催し、参加者と地元の交流・PRを図る。
5	継続3	浜通り創生・復興イベント ロボテス縁日 ロボット・ドローン大集合	浜通り創生・復興イベント実行委員会	南相馬市	イノベーションコースト構想の認知度向上を目指して、イベントを開催する。 ・日時:10月中の2日間(土日) ・場所:福島ロボットテストフィールド ・料金:無料 ・内容:研究棟内に出店ブースを設け、体験体感イベントを実施。相双地域の食や特産品を提供するブースやF-REIを紹介するブースを設置する予定。
6	継続3	浜通りにおけるジャズを通じての音楽文化の醸成と地域連携のための発信事業	浜通りJAZZFES実行委員会	広野町、いわき市	「ジャズの町」をテーマとした浜通り広域での音楽イベント開催による交流人口増加を目的に、下記事業を実施。 浜通り地域の2カ所を選定し、ジャズのコンサートを実施。
7	継続2	東北お遍路による地域活性化事業	東北お遍路・福島	浜通り地方	福島沿岸部の巡礼地巡り(お遍路)を通じた交流人口拡大を目的とし、以下の取組みを実施する。 ・3.11物語募集と東北お遍路巡礼地への登録 ・福島お遍路俳句コンテスト ・福島お遍路フォトエッセイコンテスト ・福島お遍路標柱見本製作&設置者募集 ・東北お遍路の宿・福島登録 ・巡礼地巡りバスツアー(新地町～南相馬市)
8	継続2	ふくしまスポーツ未来プロジェクトin相双	ふくしまスポーツ未来プロジェクトin相双実行委員会	相馬市 南相馬市 檜葉町	地域の青少年や住民と県内外のスポーツ関係者や愛好家とのスポーツ交流事業を通じた青少年育成、地域の魅力発信による風評払拭、人的ネットワーク構築による交流人口拡大と地域活性化を目的とし、下記事業を実施する。 ・日程 令和5年6月～令和6年3月 ・場所 二の丸球場、ならは球場、鹿島CC、Jヴィレッジ等 ・内容 野球、サッカー、ゴルフ等のプロ選手や指導者によるスポーツ教室
9	新規	SOSO創生・潮風マーケットでつくる賑わい事業	釣師潮風マーケット 実行委員会	新地町	地域の食と生活の安心と安全の情報を発信し風評払拭を試み、その安心安全を確認し人が集える場(マーケット)を提供することで交流人口が増え、地域の賑わいと活気をつくることを目的に、事業を実施。 ・青空マーケット×軽トラ市(新地町内開催2回程度) ・子どもの遊び場WS(遊びを通じて地域の魅力や防災を学ぶ) ・風評払拭・安心安全PR(チラシやパンフレットの配布) ・マーケット向上勉強会(魅力ある商品作りやSDGsの取り入れ方等) ・WEB・SNS等の情報発信
10	新規	相馬の「未来」を感じて・学んで・発見しよう!	一般社団法人相馬青年会議所	相馬市	高校・大学卒業後に戻ってくる相馬出身の若者が年々少なくなっており、地域の未来を担う人材を育てていくためにも地域の魅力を体験しながら相馬に対する想いを育み、地域活性化を促していくことを目的として、以下の取組を実施。 ・日程 令和5年7月15日(土) ・場所 尾浜こども公園、尾浜海水浴場 ・内容 地域の仕事や、文化体験を通じて相馬の魅力ある大人を知ってもらおう。また、地域の自然や食を楽しむブースを設置。
11	新規	ダンスで地域を元気に!相双復興ダンスプロジェクト	相馬ストリートダンス協会	相馬市	都市部に比べて、相双地域の子どもたちは学びや習い事のきっかけが少ない現状にある。そのような中、自己表現の手段として昨今普及している「ダンス」の手法を通して、子どもたちに地域の誇りと夢を持ってもらい、子どもたちの健全な育成を通じた地域社会を牽引する人材を育成することを目的とする。 ・ダンスレッスン、成果発表会 ・ダンス振興とより効果的な教育指導のための研修等の実施。
12	新規	SOMA逸品カレーコンテスト2023	相馬商工会議所	相馬市	相馬市は産業、観光業、農林水産業などへの風評被害が続いており、地域産業の疲弊・衰退が課題となっている。地産農林水産物等の風評払拭、安全性の正確な情報発信、交流人口の拡大を目的とし、以下の取組みを実施。 ・日程 令和5年10月22日(日) ・場所 相馬市内田町通り商店街、馬陵通り地区路上特設会場 ・内容 相馬由来の食材を利用したカレーのコンテストを実施 「SOMA音フェス2023」(自己財源で対応)と同時開催
13	新規	パークゴルフ全国大会を通じた参加者の復興交流と物産振興事業	相馬市パークゴルフ実行委員会	相馬市	相馬市はコロナ禍や地震被害の影響により交流人口の減少が課題となっている。一方パークゴルフ場の来場者は、回復傾向にあることから、全国パークゴルフ大会において、地域の物産の販売や被災地復興ツアーを開催することで交流人口拡大を図る。 ・全国パークゴルフ選手権大会事前イベント(招待選手による講習会、浜汁の提供、物産販売) ・被災地復興ツアー(大会前日に被災地の復興状況を見るツアーを実施。) ・JALCUP相馬松川浦全国パークゴルフ選手権大会

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	新たな観光資源発掘プロジェクト (令和3年度～、3年目)
事業概要	<p>長期間の避難により、ふる里への関心が薄らいでいる中、イベントの実施や新たな地域の魅力を発掘し、にぎわい創出や帰還促進、移住、交流人口の拡大につなげるため、下記事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜のライトアップ 4月1日～11日 夜ノ森桜並木等をライトアップする。 ・点灯式 4月1日 旧富岡第二中学校 ・写真コンテスト 4～11月 ・誘客コンテンツ作成 4月～ ・写真集の作成 12月～1月
事業の様子 (写真)	 <p>桜並木ライトアップ</p>  <p>点灯式</p>  <p>写真コンテスト応募作品</p>  <p>写真コンテスト審査</p>
事業内容 と 成 果	<p>①桜並木のライトアップ 日時：令和5年4月1日～9日 18:00～20:00 場所：富岡町内（夜の森桜並木、宝泉寺、関邸） 来訪者：延べ20,000人 内容：富岡町のシンボルでもある桜で夜のライトアップを行う 成果：夜の森地域の一部避難指示解除に伴い、周辺地域の安全性や魅力をPRすることが出来た</p> <p>②点灯式 日時：令和5年4月1日 場所：旧富岡第二中学校 参加者：延べ300人 内容：ライトアップのカウントダウンを行い来訪者の士気を高める 成果：1年の初めのイベントという意識があるかのように実施できた</p> <p>③写真コンテスト 日時：令和5年4月～10月31日 場所：富岡町内 応募者：35名 146作品 内容：富岡町に来訪した際に魅力的な風景、面白い風景の写真を撮影してもらい、新たな富岡町の魅力を発見してもらう 成果：町のシンボルは「桜」という確信と、復旧後の新しい場所などが応募作品の中に見受けられた</p> <p>④誘客コンテンツの作成 時期：令和5年5月～ 場所：富岡町内 内容：来訪出来ない方やJR富岡駅利用者に向けて、ユーチューブやホームページ、店舗内のモニターを利用し富岡町の魅力や情報発信を行い富岡町に興味を持ってもらう 成果：初めて来訪する方など、JR富岡駅を利用する方は、町の伝統行事やイベントなどの映像が映し出されると、興味をもっていただいていることがはっきりと分かり「次はこの時期に来るね」と言って帰られる方もいた</p> <p>⑤写真集の作成 時期：令和5年12月～令和6年1月 場所：富岡町内 内容：令和3年度から実施している写真コンテストの入賞作品を使用し、富岡町の新たな魅力を写真集にし富岡町に興味を持ってもらい移住・定住拡大に務める 成果：観光案内所に写真集を置くことで、電車を待つ方や観光に訪れる方々に富岡町のPRをすることができる</p>
苦労・失敗談	桜の開花時期が早かったためライトアップ期間が長く取れなかったのが悔やまれた。1年を通して気候が暖かかったため誘客コンテンツを製作するうえで季節の移り変わりが不透明だった。
来年度の目標	改めて「桜」が富岡町のシンボルであることが認識出来たので、桜に関する参加型の活動を実施したい。
その他	
団体名	一般社団法人富岡町観光協会（担当：猪狩）
連絡先	0240-23-7366
団体の活動内容	弊社は富岡町及びその周辺地域の観光資源および観光物産の開発、宣伝、紹介並びに観光施設の整備等や、交流人口につながる企画の他まちづくりに関する事業を行うなど、地域経済の振興に寄与する活動をしています。

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	美森の土（うつくしもりのつち）まつり地域活性化事業 （令和3年度～、3年目）
事業概要	年間4回にわたって「美森の土まつり」を開催する。 ・実施時期：春、夏、秋（2回） ・実施場所：浪江町内 ・実施内容：農体験、大堀相馬焼体験、紙芝居公演、ゲストコンサート、盆踊り、かぼちゃまんじゅうづくり体験、えごま油しぼり体験、焼き芋体験、地元郷土料理体験&試食会、映画『盆唄』上映、小高生産酒米日本酒試飲体験、地元カラオケ大会など
事業の様子 （写真）	 <p>民謡コンサート、のど自慢大会、大堀相馬焼体験、絵付け体験品 窯焼き、絵おと芝居、コンサート、紙芝居、エゴまづくり体験、地元素材ピザ食べ比べ、郷土料理づくり体験、地元米 日本酒 飲み比べ、地元素材でピザ づくり体験、はたけ定植体験</p>
事業内容	 <p>第一～四回 美森の土まつり 開催 地元の住民の方々中心に寄り添ったおまつりを開催することができた ○地元郷土料理の理解を深めました。 ふくしまの食の安全安心、おいしさをアピールし、 風評被害払拭を目指しました。 ○帰還促進のため、地域の元気魅力発信 復活した事業者のMAPづくり等、少しでも早い町の復興を目指しました。 ○地域の元気・魅力を発信し、風評払拭 地元で復活した鈴木酒造店様や、たまねぎ「浜の輝」、九十栗かぼちゃ、しらす等 アピールしました。地域の発展に寄与するため、地元の良さを 引き出し、共有し、喜び感謝し合える環境づくりをしました。○紙芝居を通じた地域の魅力発信 ふるさとの昔話を通して、まちの魅力を発信しました。 地元の良さを再認識しました。○大堀相馬焼体験開催 ころろの復興を目指しました。地元の象徴でもある大堀相馬焼窯元様との 結びつきを大事にしました。○地元食材の「おいしい」を再認識するとともに、アピールしました。 ○芸術活動の環境の場の提供 浪江町の避難者・避難先の交流を深めました。地元の民謡をみんなで歌いました。地元の紙芝居を絵おと芝居で伝えました。○えごまづくり体験等、実施しました。</p>
苦労・失敗談	○ 今年、早めに道路凍結等あり、計画通り、行なえないことが、多かった。
来年度の目標	○地元の良さを引き出し、共有し、喜び感謝し合える環境づくりを目指す。 ○これから大堀地区・津島地区の復興も進んで行く中、「美森の土まつり」を通じて地域の火を灯していく。（大堀相馬焼※大堀 ・ 早生桐※津島 等）
その他	
団体名	ふくしま食祭実行委員会浪江支部（担当：佐藤）
連絡先	電話：024-983-6745
団体の活動内容	震災から10年過ぎ、今一度、原点に立ち戻り、復興に向けた、地域の発展に寄与する。 地元の良さを引き出し、共有し、喜び感謝し合える環境づくりを目指す。 ※ 事業名を 「美森の土まつり」と題し、その昔、地元の復興・発展に寄与した大堀相馬焼の焼き物の土（美森の土）に肖って由来

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	いいたて村の人々の“心とからだの健康増進”への取り組み （令和4年度～、2年目）
事業概要	村外の医療サポートチームと村内の地域医療機関が連携して、特に孤立しがちな高齢者の日常生活を支え、健康不安を軽減するために以下の取り組みを実施する。 ・① 健康いちばんの集い（医療従事者による健康相談や施術） ・安心テレフォン（電話による安否確認やカウンセリング） ・NPO、村内団体等関係者に向けた医療体制に関するセミナーの開催
事業の様子（写真）	 <p>「健康いちばん！の集い」の一コマ 左から「体ほぐし体操」「医師の講和」「昼食会」</p> <p>「健康いちばん！の集い」の一コマ 左から「医師の個別相談」「保健師のハンドマッサージとカイロプラクティクス」「足の爪切りとマッサージ」「柔道整体師の施術」</p> <p>「健康いちばん！の集い」のお楽しみメニュー左から「管理栄養士と民生児童委員による食事の準備」「老人クラブ連合会」</p>
事業内容	この事業は、2022年2月村に移住され、いいたてクリニックの医師となられた本田先生と村内の訪問看護ステーションあがべこの星野所長と飯館村民生児童委員会、飯館村老人クラブ連合会と連携をした活動です。本年度は4月2日に第1回の「健康いちばん！の集い」をスタートさせ11月4日まで毎月1回計8回を開催しました。 “集い”のメニューには、①本田医師とふくしま再生の会健康・医療ケアチームの相澤医師による健康講話・健康相談、②訪問看護ステーション所長の星野さんの看護相談とハンドマッサージ、健康・医療ケアチームの管理栄養士による栄養相談、③看護師による足湯・足もみ、足の爪切り④村内の若い整体師長田さんとカイロプラクティックの石井さんの施術、⑤千葉県から介護保険外サポート事業をされているヘルパーリンクさんによる個別歩行測定があり、参加者は好きなメニューを選択できます。自力で会場に来られない方へは民生児童委員の方やスタッフが会場への送迎を手配しています。5月にコロナが5類に変更されたことにより、管理栄養士と民生児童委員が会場内のキッチンで調理した昼食をテーブルを囲んでお話をしながら一緒に楽しむことができるようになりました。東大応援団の演舞、村内グループによる太極拳の披露、老人クラブ連合会によるスカットボール、ボランティアによる似顔絵描きなどお楽しみプログラムも充実させることができました。 毎月の参加者とスタッフを合計した数を月別にみると、4月は73名、5月66名、6月87名、7月88名、8月71名、9月55名、10月63名、11月80名で、総計数は583名でした。9月を除けば、参加者数は前年より増加しています。活動をサポートするスタッフも民生児童委員や老人クラブ連合会の方々に加えて、南相馬から看護師や薬剤師が定期的にスタッフとして参加して下さるようになり、地元の方による運営が着実に進んでいます。会の活動の様子を動画にまとめてYouTube上に公開しました。 また、この“集い”の活動のほかに、飯館村村内外に住む高齢者に（現在58名が対象）、毎月一回以上、5名のスタッフが電話/手紙/LINEで連絡する“安心テレフォン”を実施しています。安否確認のほか、医療的なケアの必要を感じる場合、相澤医師、本田医師、そして、訪問看護ステーションの星野さんのアドバイスを受け、対処しています。村民が中心となって、飯館村のこれからの健康や医療、生活を一緒に考え問題解決に取り組むために「健やかに暮らせるいいたての会」の設立準備に取り組んでおり、現在までに9名（内村民8名）の設立発起人に加えて50名以上の賛同者を得ています。3月下旬に設立総会とセミナーの開催を行うべく準備を進めています。
苦労・失敗談	飯館村交流センターふれ愛館で「健康いちばん！の集い」を開催して、スタッフ・参加者それぞれ増加の傾向にありプログラムも充実させてきました。ふれ愛館では令和4年度の活動が認められて、使用料の減免措置を受けることができるようになったのは朗報でした。 9月の「集い」ではスタッフとして活動を支えているグループがコロナに罹患し自宅療養となりました。高齢の参加者への感染リスクを避けるため、参加者の送迎・受付業務、足湯の世話など直前に人練りを見直す必要が生じましたが、他のスタッフが協力して滞りなく終了することができました。 「集い」は月初めの日曜日を開催日としていますが、会場の都合などで他の休日に開催しなければならない場合もあります。参加者・ボランティア・スタッフどちらからも第1日曜日に予定していたのという声がかかることがあり、活動が定着していると思うと同時に、定期的なイベントの日程調整の大事さを改めて意識しています。
来年度の目標	参加された方にとって月一度の集いは、仮設住宅での顔なじみや集落を超えた友人・知人との再会の機会でもあり、お医者さんと気兼ねなく相談できる時間を持つことで、続行を希望されています。令和5年度は民生児童委員会や老人クラブ連合会が共催に加わりました。これらの主催・共催団体の構成メンバーが中心となって令和6年3月を目途に「健やかに暮らせるいいたての会」を発足させることとしています。高齢化が進展する村で必要とされているサービスや行政・地域・個人の関わり方を整理しながら、より地元に着した活動を行っていきます。
その他	
団体名	特定非営利活動法人ふくしま再生の会 当プロジェクト実施責任者 中町美佐子
連絡先	事務所 0244-26-5224 メール desk@fukushima-saisei.jp 事務局担当者 携帯 090-7815-6441
団体の活動内容	東京電力原発事故をきっかけに飯館村の放射線・放射能測定を開始しデータ収集を行った。被災地の再生のための各種の取組を行うNPO。（会員数261人：2022/7/31現在）現在の活動内容は放射線・放射能測定、医師・看護師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・管理栄養士等による定期的なイベントの開催、ワイン用ぶどうの実験栽培・里山の再生のための森林調査・星空観察のための施設運営、図図倉庫（旧コメリ飯館店）で霧箱等による放射線観察装置などの展示・スタディツアー・アートイベント開催など ホームページ http://www.fukushima-saisei.jp/ YouTube https://www.youtube.com/channel/UC-Miq7zZGb-L2IdAWRrRkiw/videos FACEBOOK https://www.facebook.com/FukushimaSaisei

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	J ヴィレッジハーフマラソン2023 (令和3年度～、3回目)
事業概要	復興のシンボルであるJヴィレッジを拠点に、檜葉町・広野町をコースとしたマラソン大会を開催し、風評払拭と交流人口の拡大を図る。開催前日にはウェルカムパーティを開催し、参加者と地元の交流・PRを図る。
事業の様子 (写真)	
事業内容 と 成 果	<p>■J ヴィレッジハーフマラソン2023 日時：2023年12月10日(日) 会場：J ヴィレッジ、檜葉町、広野町 エントリー数：1,558名 当日参加者数：1,352名 内容：地域の魅力を感じていただくとともに、地域振興や交流人口の拡大に貢献していく、ランナーファーストの大会</p> <p>成果： ○昨年よりも早い段階から大会に向けた準備に取り組めた。 ○競技色の強いマラソン大会でないが、ランナー目線と地域全体でおもてなしという大会コンセプトを共有しながら、チラシ作成や各種プログラム実施が行えた。また、周辺の飲食関係者からのブース出展もあり、「Jハーフ商店街」として多くの賑わいが創出できた。 ○施設の特性を生かして、「遊び村」を開催することで、参加ランナーだけでなく、ご家族やご友人などもお越しいただき、エントリー数以上の方が来場された。</p>
苦労・失敗談	<p>○昨年度の反省を生かし、エントリー開始時期を約1か月早めたが、想定よりエントリー数が鈍化して伸びなかった。 ⇒参加者募集については、例年に比べ、他大会も苦戦しているとのことだが、次年度以降は計画的かつ効果的な告知を検討していく。他大会へのチラシ配布が効果的と考えられる。</p> <p>【課題】 ○参加しやすい開催時期の検討、大会名のブランディング化など広報PRが必要。 ○例年よりも早く準備できたが、より早く7月から事務局を立ち上げるべき。 ○委託先を分けて実施したが、連絡や運営の連携を図るため、各業務の一本化も再検討する。</p>
来年度の目標	<p>○どこから参加しているのか地域分析を行い、効率的にPRを行う。また、県内のマラソン大会をはじめ、チラシ配布が問題ないか事前に確認したうえで、各種大会時にチラシを配布する。 ○地域活性化の一助として、県産品販売ブースの設置や、地域出店者によるブース出店を行う。</p>
その他	令和6年度の大会は7月よりエントリー開始予定。
団体名	J ヴィレッジマラソン実行委員会
連絡先	0240-26-0111
団体の活動内容	<p>J ヴィレッジマラソン実行委員会 檜葉町、広野町、株式会社J ヴィレッジの3者からなる実行委員会で、「J ヴィレッジハーフマラソン」を運営・開催しております。 https://www.j-village-marathon.jp/</p>

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	浜通り創生・復興イベント ロボテス縁日 ロボット・ドローン大集合 (令和3年度～、3年目)
事業概要	<p>イノベーションコースト構想の認知度向上を目指して、イベントを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：10月中の2日間（土日） ・場所：福島ロボットテストフィールド ・料金：無料 ・内容：研究棟内に出店ブースを設け、体験体感イベントを実施。相双地域の食や特産品を提供するブースやF-REIを紹介するブースを設置する予定。
事業の様子 (写真)	 <p>【地元の魅力を発信した風とロックCARAVAN福島】</p> <p>【ドローンの開発企業のブース】</p> <p>【実際にロボットを体験できた福島相双復興推進機構のブース】</p> <p>【浪江町に進出したエフレイのブース】</p>
事業内容	<p>浜通り創生・復興イベント ロボテス縁日 ロボット・ドローン大集合</p> <p>【開催日時】2023（令和5）年10月28日（土）29日（日） 2日間開催 9:30～17:00（最終日16:00）</p> <p>【場所】福島ロボットテストフィールド</p> <p>【入場料】無料</p> <p>【来場者】2日間のべ約1,100人</p> <p>【内容】最先端のドローン・ロボット産業の技術開発を行う同施設入居企業などにブース出展してもらった。イベントでは、ドローンの操作、ロボット展示見学といった体験を通して、来場者にロボット・ドローン産業に親しんでもらえた。付帯イベントとして福島県クリエイティブディレクターの箭内道彦さんを中心に活動する「風とロックCARAVAN福島」を催した。相双地域の魅力などを発信した。このほか、福島国際研究教育機構（F-REI）及び福島水素エネルギー研究フィールドの取り組みを紹介するブースも設けた。</p>
苦労・失敗談	<p>初日は、風とロックCARAVAN福島を催したが、2日目が出展者のPRのみにとどまった。地元の太鼓団体などを招集し、地域の文化などを発信するステージを企画すれば、来場者ももう少し増えたと思う。</p>
来年度の目標	<p>ステージの充実したイベント運営</p>
その他	
団体名	浜通り創生・復興イベント実行委員会
連絡先	事務局（福島民報社広告局企画推進部） TEL024（531）4161
団体の活動内容	<p>浜通り再生の柱となる福島イノベーション・コースト構想の県民認知度を向上させると同時に、構想に基づき南相馬、浪江両市町に整備された陸・海・空のフィールドロボットの開発拠点である「福島ロボットテストフィールド（通称・ロボテス）」とドローン・ロボットに県民が親しむ機会を創出するイベントを企画運営する。イベントは、本県の産業振興にもつなげる機会とする。相双地区の産業や食などの魅力に触れてもらうコンテンツもイベントに盛り込む。</p>

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	浜通りにおけるジャズを通じての音楽文化の醸成と地域連携のための発信事業（令和元年度～、3年目）
事業概要	「ジャズの町」をテーマとした浜通り広域での音楽イベント開催による交流人口増加を目的に、下記事業を実施。 浜通り地域の2カ所を選定し、ジャズのコンサートを実施。
事業の様子 (写真)	
事業内容	<p>※今年度は2月と3月に開催するためこれまでの事業について紹介する。事業内容：吹奏楽部部員及び一般の楽器を演奏する音楽愛好家に対し、普段馴染みの薄いジャズに触れてもらうことで音楽の幅を広げてもらうと共に、浜通りにおける音楽文化の醸成を目指すためワークショップを開催した。また、楽器を演奏しない音楽愛好家や普段音楽にあまり触れることのない人たちに対し、ジャズに触れてもらう機会を作るため安価な入場料でライブを行った。成果：ジャズのリズムの取り方やアドリブの入れ方等通常の部活動やPOPSの演奏では知ることの出来ない技術をプロのミュージシャンから直接指導を受けることでワークショップは好評である。吹奏楽部部員以外の一般の方では会津若松市からの参加がある等想定外の反響があった。コンサートではもっとライブの回数を増やして欲しい・また絶対来て欲しい等老若男女から好評を得た。</p>
苦労・失敗談	<p>①2年目の開催時にはワークショップにおいてリモート参加を促したが、業者の設定がうまくいかずリモートでの参加を受け入れることができなかった。②企業からの協賛金が思うように集まらなかった。③吹奏楽連盟のイベントとの兼ね合いで日程調整が難しかった。</p>
来年度の目標	<p>吹奏楽連盟のイベントとの日程調整が課題であり、これをクリアすることが第一目標。次に認知度向上のためのPR活動をお金を出来るだけかけずに効率よく行うこと。</p>
その他	
団体名	浜通りJAZZ FES実行委員会
連絡先	0240-23-7704（（株）広野町振興公社内）
団体の活動内容	<p>「浜通りに新しい風を」をキャッチフレーズに、スポーツ文化では有名な浜通りに音楽文化を定着させよう！と有志により結成した任意団体が、プロのミュージシャンを招聘しワークショップの開催とコンサートを行う。</p>

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	東北お遍路による地域活性化事業 (令和4年度～、2年目)
事業概要	<p>福島沿岸部の巡礼地巡り（お遍路）を通じた交流人口拡大を目的とし、以下の取り組みを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.11物語募集と東北お遍路巡礼地への登録 ・福島お遍路俳句コンテスト ・福島お遍路フォトエッセイコンテスト ・福島お遍路標柱見本制作&設置者募集 ・東北お遍路の宿・福島登録 ・巡礼地巡りバスツアー（新地町～南相馬市）
事業の様子 (写真)	
事業内容 と 成 果	<ul style="list-style-type: none"> ●標柱見本制作&設置者募集 <p>新地町の安波津野神社に新型標柱を設置（12月26日）。東京からの大学生と教職員7名も合流し、量販店で求められる材料で標柱を設置した。この日は近くにある「大戸浜観音堂」にも1基設置した。設置マニュアルをHPにアップし、設置者を公募していく。</p>
苦労・失敗談	<p>東北お遍路巡礼地は95か所あり、福島県内だけでも32か所ある。そのうち県内で標柱が立っているのは2か所だけだ。その原因は標柱の設置を寄贈に頼っていたことと、寄贈される標柱が1本130万円と大変高価で、なかなか続かなかった。そこで材料費5～6万円のできる標柱づくりにチャレンジした。量販店で求めた2本の長さ90センチの縁石と、自然石をアンカーボルトで繋いだ標柱は、決して安定感が良いものではなく、いささか設置に苦労した。</p>
来年度の目標	<p>来年度はこの標柱の材料を提供するという形で、10本くらいを地域の方々と一緒に立てていきたいと考えている。</p>
その他	<p>①福島の3.11物語募集と東北お遍路巡礼地への登録 今年度の県内の追加登録は2件程度になりそうだ。</p> <p>②俳句コンテスト 東北をテーマに俳句を募集する。選者は夏井いつき氏と黒田杏子氏の逝去を受け、渡辺誠一郎氏。昨年の2倍の1693句が寄せられた。2月中旬に作品集を2000部発行。</p> <p>③フォトエッセイコンテスト（写真に短文を添えたもので審査） 東北の風景、祭り、人物などの写真を募集。今年は80点の作品が寄せられた。</p> <p>④東北お遍路の宿・福島登録 被災地で東北お遍路の巡礼者に協力してくれる宿にアンケートを送り選考した。</p> <p>⑤東北お遍路巡礼地マップ2023制作 令和4年度新たに登録された県内の巡礼地5か所を追加し、新版東北お遍路巡礼地マップを3月までに制作する。</p>
団体名	東北お遍路・福島
連絡先	☎0244-64-2042 ; cxh05551@nifty.com(新妻)
団体の活動内容	<p>東北お遍路・福島は（一社）東北お遍路プロジェクトの福島支部として活動している。東北の被災地には八戸からいわき市まで95ヶ所の巡礼地が設置されているが、福島県は32ヶ所（宮城34ヶ所）。双葉郡などの開放に時間を要したからと考える。そこで、東北お遍路のアートに関する活動や宿泊施設の紹介を通し、福島県浜通り地方に観光客を招き入れる様々な方策を実施する。</p>

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	ふくしまスポーツ未来プロジェクトin相双 (令和4年度～、2年目)
事業概要	<p>地域の青少年や住民と県内外のスポーツ関係者や愛好家とのスポーツ交流事業を通じた青少年育成、地域の魅力発信による風評払拭、人的ネットワーク構築による交流人口拡大と地域活性化を目的とし、下記事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程 令和5年6月～令和6年3月 ・場所 二の丸球場、ならは球場、鹿島CC、Jヴィレッジ等 ・内容 野球、サッカー、ゴルフ等のプロ選手や指導者によるスポーツ教室
事業の様子 (写真)	 
事業内容 と 成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して温暖な「相双地域」とスポーツ施設を活用し、スポーツを通じた交流人口の拡大と地域活性化を目指す。 ・スポーツのチカラで地域のジュニア世代の健全育成を目指す。 ・スポーツツーリズムの発展に向けたネットワーク作りと地域の魅力を発信する ・温暖な気候と施設等の地域資産を生かし、県内外から参加者を募る大会等を誘致する <p>【プロジェクトの概要～野球場～】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピックの野球競技開催を契機に、野球のチカラで福島を盛り上げる。 ・ゴールデンエイジ（5～12歳）は「運動能力が著しく発達する時期」運動に親しむ機会を創出する。 <p>調査によると、体力及び運動能力は30年前の3歳児と現在の5歳児が同等、30年前の5歳児と現在の小学3・4年生が同等。小学生の1日の運動は2時間必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロや指導者から技術を学び今後の練習や試合に生かす。
苦労・失敗談	地域の少子化は進んでいます。
来年度の目標	野球、ゴルフをはじめ様々なスポーツの魅力を地域から発信して、より多くの青少年にスポーツの楽しさを伝えたい。
その他	
団体名	ふくしまスポーツ未来プロジェクトin相双実行委員会
連絡先	江花080-5743-5366
団体の活動内容	野球を通じた地域活性化に取り組む、ふくしまベースボールプロジェクト（FBP）を中心にゴルフやほかのスポーツ団体と一緒に子供の体力づくりとスポーツの機会の創出に取り組んでいます。学校スポーツの地域移行についても取り組んでいます。大会等の誘致を通して交流人口の拡大に取り組んでいます。

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	SOSO創生・潮風マーケットでつくる賑わい事業 (令和5年度～、1年目)
事業概要	<p>地域の食と生活の安心と安全の情報を発信し風評払拭を試み、その安心安全を確認し人が集える場（マーケット）を提供することで交流人口が増え、地域の賑わいと活気をつくるところを目的に、事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青空マーケット×軽トラ市（新地町内開催2回程度） ・子どもの遊び場WS（遊びを通じて地域の魅力や防災を学ぶ） ・風評払拭・安心安全PR（チラシやパンフレットの配布） ・マーケット向上勉強会（魅力ある商品作りやSDGsの取り入れ方等） ・WEB・SNS等の情報発信
事業の様子 (写真)	 <p>【野菜販売・店頭】</p>  <p>【バルーンアート】</p>  <p>【会場写真】</p>  <p>【イベントチラシ】</p>
事業内容 と 成 果	<p>①釣師潮風マーケット 日時：8月11日（金）、10月1日（日） 会場：釣師防災緑地公園 参加者：2,300名 内容：野菜、植物、手芸品、工芸品、加工品等の販売 体験ワークショップ、飲食店屋台 お楽しみ抽選会、バルーンアートステージ 成果：○家庭菜園の野菜や花などで初めて出店した人も多く、地域を盛り上げたい地域の人たちを巻き込めた ○イカ墨パンやツブ貝のスープの露店で商品が完売、ALPS処理水の風評の心配もあったが、海産物応援ムードの方が大きかった</p> <p>②マーケット向上勉強会 日時：12月16日（土） 会場：La'1 COFFEE 内容：魅力あるイベント、魅力ある商品づくり意見交換&ワークショップ 成果：出店者同志が、商品へのこだわりや見せ方の工夫や課題などの意見交換ができ、次年度に向けての改善点など前向きな場となった</p> <p>③WEB、SNSを活用した情報発信 ○WEB・SNSの情報から、仙台・福島など来場者も多く、多くの来場者があったことが、アンケートからも得られた。用意した町内案内のパンフレットが、ほぼなくなった</p>
苦労・失敗談	<p>○8月の開催は出店者募集で苦労した。 → お盆のタイミング。チラシの配布だけでのむずかしさ。 ○8月は、猛暑で日中の外出そのものが敬遠されてしまい来場者が少なかった。 → 夕方からのサンセットイベントや、開催時期を変更する必要がある</p>
来年度の目標	<p>○開催時期を5月へ変更し、来場者を増やし認知度をあげていく ○キッチンカーや、軽トラックなど販売参加者を多く募りたい</p>
その他	令和6年度の出店者募集を4月から行う予定です！
団体名	釣師潮風マーケット実行委員会
連絡先	090-8877-7224（担当：日下）
団体の活動内容	<p>釣師潮風マーケット実行委員会は、新地町釣師防災緑地公園での開催を拠点とし、新地から相双地域を広く視野に入れた交流人口の拡大、地産地消、風評払拭、防災、風化など複数の地域課題を、マーケットのイベントを通じて解決するために活動をスタートしました。 https://www.siokaze.blue/</p>

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	相馬の「未来」を感じて・学んで・発見しよう！ (令和5年度～、1年目)
事業概要	<p>高校・大学卒業後に戻ってくる相馬出身の若者が年々少なくなっており、地域の未来を担う人材を育てていくためにも地域の魅力を体験しながら相馬に対する想いを育み、地域活性化を促していくことを目的として、以下の取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程 令和5年7月15日（土） ・場所 尾浜こども公園、尾浜海水浴場 ・内容 地域の仕事や、文化体験を通じて相馬の魅力ある大人を知ってもらう。また、地域の自然や食を楽しむブースを設置。
事業の様子 (写真)	
事業内容	<p>本年は、相馬市に住む子どもたちに地域の魅力や魅力ある大人を知って貰う機会として、SOMAシーサイドフェスティバル2023を開催いたしました。</p> <p>本事業では、子どもたちの体験ブースをメインとして、働く車ブース（働く大人の姿を、子どもたちの興味を引きやすい車両の展示を通して発信しました）や先進技術の体験ブース、子どもたちにより地域を知ってもらうためのブーススタンプラリー、漁師の仕事を知ってもらうロープワーク体験、地元水産業を知ってもらう魚の展示やタッチプールなど、豊富なブースを用意いたしました。</p> <p>また、地元の子供達の発表の機会を設け、子どもたちも主体となって地域の魅力を発信する機会として、中村第二小学校の原釜太鼓や山上小学校の児童とアーティストのコラボによる相馬土垂PRの曲の紹介、松川浦地区の幼稚園保育園児によるステージなどを実施いたしました。</p>
苦労・失敗談	<p>初めて、多くの団体、個人との連携の中で、調整が難しいところも多くありましたが、青年会議所として積み上げてきた事業構築のノウハウを存分に発揮し、実行委員会に参加したメンバーが知恵を絞りながら乗り越えることができました。</p>
来年度の目標	<p>今回積み上げた地域の濃い横のつながりや高校生とのつながりを大切にしながら、より地域に根ざした事業とし、老若男女、様々な背景やスキルを持つ人をより多く巻き込みながら、地域から愛される、地域を代表する事業としたいと考えています。</p>
その他	
団体名	一般社団法人相馬青年会議所
連絡先	
団体の活動内容	<p>一般社団法人相馬青年会議所は、地域の青年経済人が明るく豊かな社会の実現のために、青少年育成事業や防災減災事業など様々な運動に取り組んでいます。多くのバックグラウンドを持ち地域に根ざしたメンバーを持ち、国際組織としてのスケールメリットを持つ団体です。</p>

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	ダンスで地域を元気に！相双復興ダンスプロジェクト (令和5年度～、1年目)
事業概要	都市部に比べて、相双地域の子どもたちは学びや習い事のきっかけが少ない現状にある。そのような中、自己表現の手段として昨今普及している「ダンス」の手法を通して、子どもたちに地域の誇りと夢を持ってもらい、子どもたちの健全な育成を通じた地域社会を牽引する人材を育成することを目的とする。 ・ダンスレッスン、成果発表会 ・ダンス振興とより効果的な教育指導のための研修等の実施。
事業の様子 (写真)	
事業内容 と 成果	<p>1.子どもたちが自己表現の手段を身につけるダンスレッスン □時期:8月1日～9月15日 □場所:南相馬～相馬～新地各所、体育館・スタジオ・多目的ホール等 □対象:新地町～南相馬市の小学生から高校生 □規模:参加者のべ415名 ・新地町:新地小学校 のべ60名 ・相馬市:桜ヶ丘小学校 のべ270名/中村第二小学校 のべ60名 ・南相馬市:トモダチプロジェクト のべ25名 合計 のべ415名にダンスレッスンを実施。 □内容:子どもたちが自己表現の手段を身に付けられるように、新地町、相馬市、南相馬市の各所でダンスレッスンを行った。</p> <p>2.子どもたちが成果を披露し、自己表現する機会の提供 □時期:9月18日 □場所:相馬市民会館 大ホール □対象:新地町～南相馬市の小学生から高校生とその保護者、地域住民 □規模:参加者200人程度/保護者200人程度/地域参加者40名 合計440人程度 □内容:本発表会では、子どもたちの豊かな自己表現を支援し、互いに切磋琢磨しあえる環境を提供するために、上記のレッスンに参加した子どもたち以外も積極的に招聘し、ダンスの一大イベントとして実施した。また、途中でトップアーティスト(三代目JSB等)の公開ラジオ収録を通して、子どもたちにダンスの楽しさやエールを送り、また、レッスンに参加した子どもたちとトップアーティストの共演の舞台を設け、子どもたちに表現の豊かさを学んで頂く設えを行った。</p> <p>3.子どもたちが継続して誇りと夢を持ち続けられる環境の整備</p>
苦労・失敗談	本事業では、参加費や協賛金及び補助金を原資に事業を行っているが、思うように協賛金が集まらず苦労することがあった。今後は、パートナーとなる企業や個人を巻き込みながら、協賛等の収入を増やす一方で、賛助等で支出を抑える工夫が必要となる。
来年度の目標	□子どもたちへの機会の提供をしっかりと続けていく。 □市内事業者を積極的に巻き込む・
その他	
団体名	相馬ストリートダンス協会
連絡先	相馬ストリートダンス協会 担当 松本光基 (080-2822-4726)
団体の活動内容	相馬ストリートダンス協会は、相馬市に本拠地を置く、相双地区でストリートダンスを中心に、ダンス振興を行う団体です。ダンスが自己表現の手段として、子どもたちの夢を叶える武器として、地域を担う子どもたちがのびのびと暮らせる環境づくりを、ダンスの力で行う活動をしています。

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	SOMA逸品カレーコンテスト2023（令和5年度～、1年目）
事業概要	<p>相馬市は産業、観光業、農林水産業などへの風評被害が続いており、地域産業の疲弊・衰退が課題となっている。地産農林水産物等の風評払拭、安全性の正確な情報発信、交流人口の拡大を目的とし、以下の取り組みを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程 令和5年10月22日（日） ・場所 相馬市内田町通り商店街、馬陵通り地区路上特設会場 ・内容 相馬由来の食材を利用したカレーのコンテストを実施「SOMA音フェス2023」（自己財源で対応）と同時開催
事業の様子（写真）	<p>【カレー購入者の行列】</p> 
事業内容	<p>○事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催：相馬商工会議所（主管：相馬商工会議所青年部） ・対象：地域内外からの来場者 ・開催日：令和5年10月22日（日） ・開催場所：相馬市内 田町通りならびに馬陵通り地区路上 ・事業内容：「SOMA音フェス2023」と同時開催による、相馬産の海産物・農産物などの食材を使用したカレー11品（うち1品は出店キャンセル）の美味しさに対する順位を決めるコンテスト。 ・実施方法：イベント来場者が投票権付きのチケット（1枚1,000円で4食分）を購入し、好きなカレーを選んで食べる。一番美味しかったカレーに投票し、最も投票数が多いカレーを優勝とした。 <p>○成果</p> <p>「SOMA音フェス2023」との同時開催により、イベントに多数の来場者が訪れ、会場となる商店街は多くの人で賑わった。また、地産農林水産物等の風評払拭、安全性の正確な情報発信、新たな相馬逸品の創造、及び交流人口の拡大が図れた。</p>
苦労・失敗談	<p>カレー販売（コンテスト出店者の配置）における会場レイアウトに難があり、カレー購入における来場者の動線確保に少々手間取った。</p>
来年度の目標	<p>今後、毎年継続的に開催し、更なる来場者、及び出店者の拡大により、当イベントの認知度を上げ、地域の経済・食文化の振興に貢献できるよう、PR・周知方法の拡大、及びイベント運営全体の規模拡大・改善に取り組む。</p>
その他	
団体名	相馬商工会議所（担当 松本）
連絡先	電話：0244-36-3171
団体の活動内容	<p>地区内における商工業の総合的な改善発展を図り、中心市街地活性化事業や地域物産・観光振興事業、地域振興・経済連携事業、個社支援のための経営改善普及事業の実施。また、地域活性化のため相馬市や福島県商工会議所連合会など関係団体と連携し、国等への要望活動を積極的に行っている。</p>

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）事業紹介カード

事業名	パークゴルフ全国大会を通じた参加者の復興交流と物産振興事業
事業概要	<p>相馬市はコロナ禍や地震被害の影響により交流人口の減少が課題となっている。一方パークゴルフ場の来場者は、回復傾向にあることから、全国パークゴルフ大会において、地域の物産の販売や被災地復興ツアーを開催することで交流人口拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国パークゴルフ選手権大会事前イベント（招待選手による講習会、浜汁の提供、物産販売） ・被災地復興ツアー（大会前日に被災地の復興状況を見るツアーを実施。） ・JALCUP相馬松川浦全国パークゴルフ選手権大会
事業の様子 (写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p style="color: red; font-weight: bold;">受付～参加賞配布</p> <p>※参加賞は、日本一の「山形屋」の天醬と薄口醤油セット 478名分を参加者に渡しました。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p style="color: red; font-weight: bold;">講習会開催</p> <p>パークゴルフの発祥地の北海道から2名の方に講師をしてもらいました。</p> </div> </div>
事業内容	<p>1. 令和5年11月24日～26日(3日間)に、「2023第29回JALCUP相馬松川浦全国パークゴルフ選手権大会」を相馬光陽パークゴルフ場で開催しました。ニューヨーク州から1名の参加で国際豊かな大会で総勢478名の交流と絆を深めました。</p> <p>2. 今回は、相馬市名物の「浜汁」を24日の昼に提供しました。内容は、相馬で旬の魚介類、相馬産自身のつみれ、和風だしの出汁に日本一の山形屋のお味噌を入れ、相馬産のあおさ、ネギをトッピングしたものでした。</p>
苦労・失敗談	パークゴルフの発祥地の北海道からの参加者が少なかった。
来年度の目標	<p>1. 参加人数を増やす情宣活動を4月頃から進めていく。</p> <p>2. 参加者を地元、相馬市内で宿泊することを行政と連携しながら進める。</p>
その他	令和6年度の参加募集を8月から行う予定です。開催日11月29日～12月1日
団体名	相馬市パークゴルフ大会実行委員会
連絡先	相馬光陽パークゴルフ場 電話0244-26-8009 事務局(徳田、荻野)
団体の活動内容	6年度の活動計画です。相馬市パークゴルフ大会実行委員会は、実行委員長、実行委員、事務局等で構成された団体です。年間を通じて①東日本パークゴルフ選手権大会4月に開催(主催福島民報社)②相馬市長杯「野馬追カップパークゴルフ大会」5月に開催③11月29日～12月1日に開催します「2024第30回JALCUP相馬松川浦全国パークゴルフ大会」等の企画、運営を行っています。